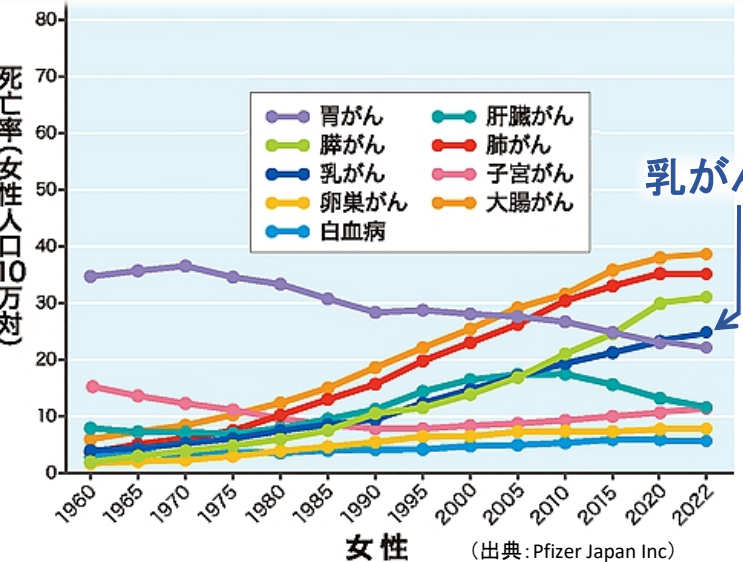


乳がんを防ぐための基本的な心構え ⇒ホルモン代謝の健全化



特に発がん性が高いのは、E1から変換される

- ・ 16α-OH-E1 (16α-ヒドロキシエストロン)
- ・ 4-OH-E1 (4-ヒドロキシエストロン)

および、E2から変換される

- ・ エストラジオール-3,4-キノン

逆に、発がんを抑制する、またはがんの増殖を抑制する方向に働く代謝産物は、E1から変換される

- ・ 2-OH-E1 ・ 2-MeO-E1 (2-メトキシエストロン) ・ E3

および、E2から変換される

- ・ 2-ヒドロキシエストラジオール
- ・ 2-メトキシエストラジオール (2-MeO-E2)

閉経前… E2 > E1 > E3
閉経後… E1 (8割) > E2 (1割) > E3 (1割)

最大の問題は、16α-OH-E1をE3へと変換する能力が乏しいことによって発がんリスクが高まる

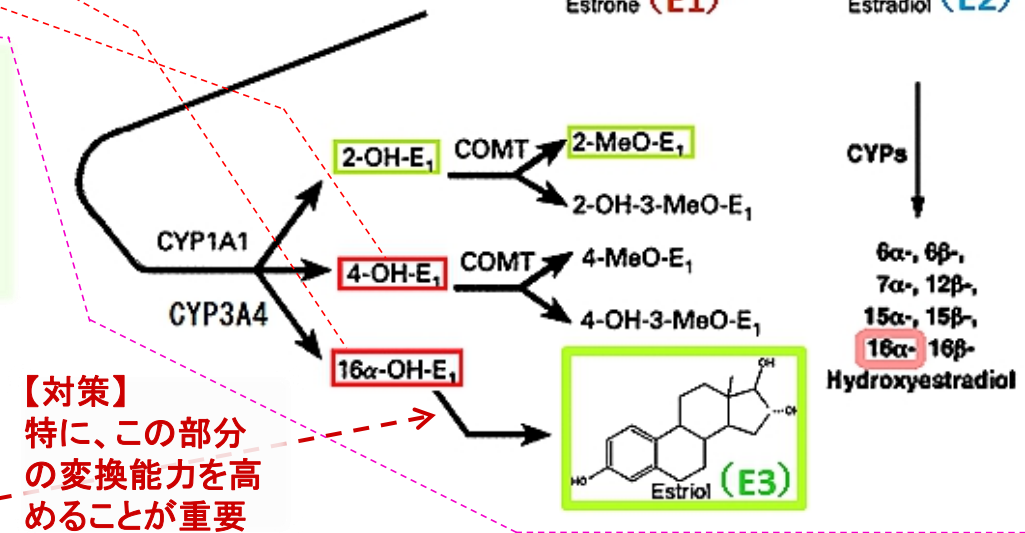
サブタイプ分類	ホルモン受容体		HER2	Ki67値	日本人患者に占める割合
	ER	PgR			
ルミナルA型	陽性	陽性	陰性	低(< 14%)	60 (70) %以上
ルミナルB型 (HER2陰性)	陽性または陰性	弱陽性または陰性	陰性	高(≥ 14%)	~5%
ルミナルB型 (HER2陽性)	陽性	陽性または陰性	陽性	低~高	~10%
HER2型	陰性	陰性	陽性	-	10~15%
トリプルネガティブ	陰性	陰性	陰性	-	

ER: エストロゲン受容体 PgR: プロゲステロン受容体

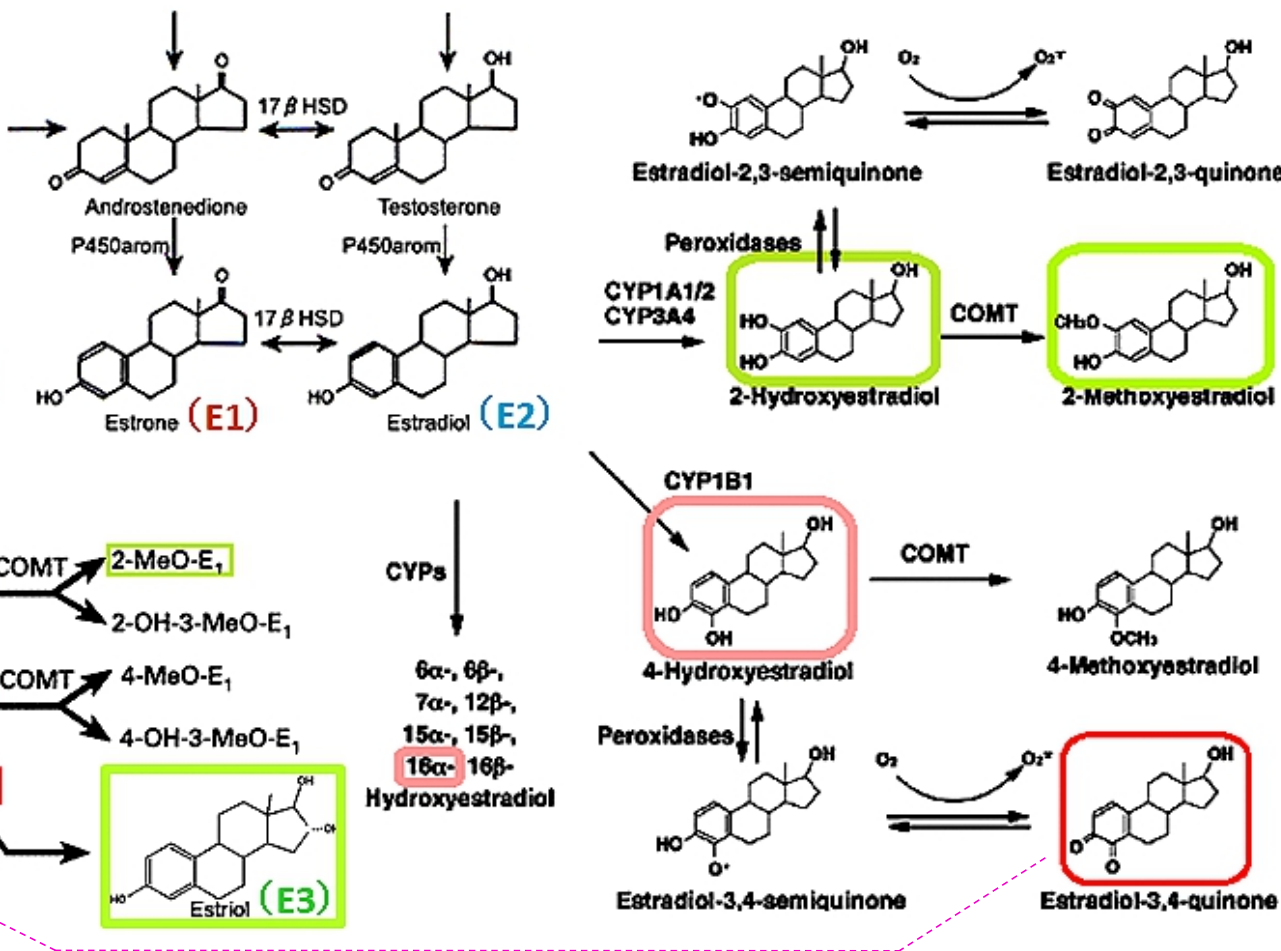
<作成: stnv基礎医学研究室>

当然のことながら、女性ホルモンの本体であるエストロゲン(E1; エストロン、E2; エストラジオール、E3; エストリオール)そのものに発がん性があるわけではない。

女性ホルモンの代謝



【対策】
特に、この部分の変換能力を高めることが重要



乳がんの7割程度を占めているのが「ホルモン性の乳がん」であり、これは時代の進展と共に急増してきた。女性ホルモンが悪いのではなく、女性ホルモンの代謝のされ方が悪いのである。その問題を生み出したのは現代社会であり、多くの女性はその被害者である。